



広報

なほ市民の友

第605号 毎月1回発行

2001年(平成13年)

6月

発行 那覇市 編集 秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 印刷(株)池宮商会

みんみでまごころ
ラジオ広報
「那覇市民の時間」毎週日曜日
RBC・午前9時15分から25分まで

那覇市
ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/



ふるさとのおもちゃ

なつかしい郷土の玩具づくり

身近な草や木の葉で
玩具をつくらうよ。

連休最終日の5月6日、那覇市伝統工芸館で那覇市指定無形文化財保持者だった故古倉保文さんと沖縄郷土玩具作家の故外原淳さんの作品を紹介した「沖縄の玩具展」と、子どもたちに、郷土の伝統的な玩具づくりを楽しんでもらおうと、体験教室が行なわれました。

玩具づくり教室には、身近に自生する植物の葉で玩具ができることとあつて多くの家族づれが参加。講師は、子供の時から自然を友とした古謝明孝さん。頭にはクバガサ、肩にはミノをはおり、アダンの草履ばきでさつそうと登場。早速、アダンの葉のカジマヤー(風車)と星コロ、ソテツの葉で作る虫かご、ススキの葉の親子舟づくり。

葉で手を切ってしまうたり、うまく作れずベソをかく子もいましたが、みんな、昔の人が工夫し、遊んだ玩具づくりに夢中。お父さんお母さんたちも童心に戻り、子供たちと一緒に玩具づくりに挑戦しました。

遊びや暮らしの中から生まれた玩具からは自然な生活の営みが伝わってきます。

展示品のアダンで作ったトンボ・カエル・尾長どりや馬などの手づくり玩具をすばらしい郷土の伝統玩具として受け継いでいきたいものです。

主な紙面

- (2面) 事業所・市民による「みみの分別と減量」を!
- (3面) 7月8日は市議会議員の投票日
- (4面) 平成13年度市政功労者17名を表彰
- (5面) 環境保全行動計画を策定
- (6面) CT検査がさらに高度に
- (7面) 情報PACK



世界遺産

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」④

識名園(しきなえん)

識名園は、琉球王家随一の庭園で、外国使臣の歓待、国王一家の保養を目的として、一七九九年に造営されました。

一八〇〇年、尚温王(しょうおんおう)の冊封使としてやってきた正使趙文楷(せいしちようぶんかい)、副使李鼎元(ふくしりていげん)がはじめて招かれています。

その時のエピソードとして、招宴に造営が間に合わず、手伝いに来たいた識名村の若者の機転で、芝の代わりに「かいわれ大根(一説になたね)」をまいて、なんとかしのいたというお話が伝えられています。

識名園は、草書体の「心」という字の形に掘られた池を中心に、その周囲を歩きながら景色の移ろいを楽

しむ「廻遊式庭園(かいゆうしきていえん)」になっています。また、春には池の東の梅林に花が咲いてその香りが漂い、夏には中島や泉のほとりの藤、秋には桔梗が花を開くなど、「常夏」の沖縄にあつて、四季による景色の変化も楽しめるように工夫がなされてきました。

規模の大きな「廻遊式庭園」は、近世の大名庭園に多く現れ、識名園もそのような日本庭園の流れに載るものですが、中国風の石橋や六角堂、琉球特有の赤瓦屋根の御殿など、随所に独自の個性がのぞいています。

しかし、他の文化遺産同様、第二次世界大戦の激しい戦火に巻き込まれ、一時は廃園状態に陥っていました。その識名園の復元に着手し、完成間近になって、「玉陵」などと共に那覇市へ無償譲渡された尚家第三二代当主尚裕氏の志を、私たちは大切に受け継がなければなりません。

ところで、世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の登録に当たり、識名園は、「遺跡(文化的景観)」と位置付けられています。海外との交易を通じて形成された琉球の歴史を反映した、独自の「琉球庭園」として評価を受けたのです。

(那覇市教育委員会 文化財課)

